

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成24年12月25日現在

今月の重点活動

高病原性鳥インフルエンザ防疫業務訓練実施

高病原性鳥インフルエンザ発生時に、農業普及課は緊急消毒隊として迅速に防疫業務を行う必要があるため、岐阜家畜保健衛生所で防疫業務に関する訓練を行った。

対応マニュアルに基づき、活動体制を確認後、防疫機材を実際に作動させて全職員が使用できるようにした。また、効率的に行動できるよう、マニュアルを更新した。



【防疫訓練の様子】

活力ある新産地づくり

■アスパラガス 実証展示ほ場のオープンハウス・簡易雨よけハウスの耐雪性確認

12/10に20cm程度の積雪に見舞われたが、活力事業で実証展示に取り組んでいる「オープンハウス」・「簡易雨よけハウス」は、ビニール巻き上げタイプの仕様にしていたため、ハウスに雪が積もることなく倒壊を回避することが出来た。

来春の良品生産に向けて、生産者は茎葉の刈り取り作業に追われている。来年2月から保温を開始し、3月からの出荷に備える。



【屋根のビニールを巻き上げて倒壊を回避】

売れる農畜産物づくり

■かき 出荷終了！来年に向けた取り組み開始

管内のかき選果場では袋柿の出荷のあった糸貫選果場の12/18を最後に、かきの出荷が終了した。富有柿の出荷量は前年比125%程度だったが、単価は厳しい結果であった。

次年度の柿生産に向けて間伐・せん定講習会を12/14～22に開催した。各産地とも今年の実績を踏まえて間伐、適正着果の重要性を説明し、実技を交えて指導した。



【本巣市せん定講習会の様子】

■だいこん 祝だいこん出荷始まる！

岐阜市だいこん部会では、関西のお雑煮に欠かせない祝だいこんの出荷が12/21から始まった。

今年は、は種時期の干ばつと低温により生育は遅れ気味だが、年末までに約60万本（4ha）の出荷を見込んでいる。



【出荷を待つ祝いだいこん】

■水稻 特別栽培米協議会にて土づくり推進

12/13にJAぎふ特別栽培米生産推進協議会役員会において、今年の実績及び次年度の栽培方針について検討を行った。

農業普及課からは土壌診断結果や施肥試験結果を提示し、土づくり資材の徹底や新規肥料の導入を提案した。JAからは化学合成農薬使用回数を減らすため、温湯消毒の導入について説明した。

■ブロッコリー 出荷量確保に向けて

低温と12/10の降雪による影響を抑えるため、JAぎふブロッコリー生産連絡協議会（全農ぎふ）では秀品Mサイズの単価を上げ（値決め80円→90円）、出荷量を増やすよう対策を行った。農業普及課では栽培期間の長期化に伴う病害の発生や肥料切れ対策について指導している。また12/6肥料試験ほを活用してブロッコリー塾を開催した。参加者はそれぞれの生育状況と見比べ、今後の管理について研修した。



【ブロッコリーへの降雪】

戦略的な流通・販売

■品目等 いちごタブレット型お菓子「ぎふベリー」新発売！

いちご青年部では、「ぎふいちご」の魅力をPRしようと、12/15にJAぎふと共同開発した、いちごタブレット型お菓子「ぎふベリー」の発売を開始した。発売日には、JAぎふおんさいひろば各店舗と、県観光課が主催する観光物産展in金山駅でPR販売を行った。手にとってくれたお客さんは、いちごの香りがしてとてもおいしいと評判も良く、この土日で約250個ほど売れた。今後はコンビニなどでも販売していきたいと意気込んでいる。



【ぎふベリーの荷姿】

多様な担い手の育成・確保

■朝市連合会 農産物直売所研修会

11/17にJAぎふ北方支店で農産物直売所研修会を開催した。

12～2月の時期は農産物が少ない時期のため、冬季に栽培して出荷できる野菜品種や作型、農業資材の紹介やレモンやびわ、ブルーベリーなどの果樹の提案を行った。

また、県内の農産物直売所の現状と動向について農産物流通課から説明し、直売所の運営について見直す良い機会となった。



【研修会の様子】

県民みんなで育む農業・農村

■ねぎ 全国ねぎサミット開催！

12月8日（土）～9日（日）にねぎサミットin2012が岐南町総合体育館で行われた。

特設会場には、10府県の12産地から13種類のネギが勢ぞろいし、全国ブランドの「深谷ねぎ」（埼玉県）、「九条ねぎ」（京都府）などのほか、「徳田ねぎ」、「飛弾一本太ねぎ」、「坂祝ねぎ」の地元勢も人気を呼んだ。

大半が2本100～200円前後で販売され、多くの来場者が買い求めていた。

ネギをテーマにした首長討論会やゆるキャラショーもあり、ねぎの生産振興に寄与する催事となった。



【全国ねぎサミットin2012の様子】